

信濃川大河津資料館友の会だより

● 講座開催のお知らせ ●

信濃川大河津資料館友の会では、下記講座を開催します。ぜひ、ご参加下さい！

・信濃川中流域探訪バスツアー

日本一の河岸段丘や山手線を動かすJR発電所など、小千谷市から十日町市、津南町にかけてを1泊2日で巡るバスツアーを開催します。詳しくは、別紙チラシをご覧ください。

日時：6月28日（月）～29日（火）

定員：25名

・講演「大川」・「信濃川」と「掘割」の必然性

～『大河津分水双書第10巻』の構想にふれて～

元館長の五百川清さんに毎年お願いしている講演会。大河津分水双書第10巻の構想にふれながらお話しいただきます。

日時：7月3日（土）14:00～16:00

会場：大河津資料館 2F 多目的ホール

・新旧可動堰見学ツアー

およそ80年もの間、越後平野を守り続けている大河津可動堰と、改築事業の進む新可動堰の工事現場を見学します。可動堰改築工事の様子は2ページ目の“今号の可動堰”でも紹介しています。

日時：8月7日（土）

10:00～12:00

集合：9:50までに

大河津資料館へ集合

費用：1,500円

（保険代、バス代）



可動堰改築工事現場の様子
（平成22年6月4日撮影）



堰柱と管理橋
（平成22年6月4日撮影）

講座への参加を希望される方は、【講座名・氏名・連絡先・参加人数】を友の会事務局までご連絡下さい（TEL.0256-97-2195 FAX.0256-97-2196）。定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承下さい。また、信濃川中流域探訪バスツアー、新旧可動堰見学ツアーは座席数、費用の面から当日の参加を受け付けることができません。必ず事前にお申し込み下さい。

イベント報告

五千石遺跡講演会

3月6日(土)大河津可動堰改築事業によって発掘された「五千石遺跡」について長岡市教育委員会五千石遺跡主任調査員の加藤由美子さんから五千石遺跡の特徴や歴史、発掘調査の様子などをお話しいただきました。出土品の展示解説も行い、参加者の皆さんは興味深く聞いていました。



お茶を楽しむ会

4月18日(日)分水おいらん道中当日に「お茶を楽しむ会」を行い、たくさんの方からお茶を楽しんでいただきました。県外からおいらん道中を見に来た方より「美味しいお茶とお菓子をいただいて、大河津分水の素敵な思い出ができました。」とお言葉をいただきました。



今号の可動堰

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。

8年目に入った可動堰改築事業は、4月1日に施工中の2基の堰柱に最後のコンクリート打設が行われ、7基の堰柱全てが完成しました。平成23年度の新可動堰通水に向けてゲート設備や管理橋の工事などが行われています。8月7日(土)には可動堰の見学ツアーを行います。詳しくは1ページ目のお知らせをご覧ください。



右岸堰軸から撮影
(平成22年6月6日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成22年6月6日撮影)



川を味わう

友の会会員 清水 保

川魚のグルメ話ではありません…。

地理好きで川に対しても感心が深いであろう、かのタモリ氏が長岡を訪れた際、信濃川を見て「これぞ川だ」と言ったと何かで読んだことがある。おそらく長生橋から長岡大橋にかけてのあたりだと思うが、だとするとあまりピンとこない。例えば、旧洗堰から対岸の与板方向を見たときのとうとうと流れる様が僕にとっての川である。あるいは、常に 1km 近い川幅いっぱいに水が流れる阿賀野川河口部。テレビで見る外国の、対岸が見えない海のような川。思うに、圧倒的な水量とそこから感じる一種の“畏れ”が、川というイメージを僕の中に形づくっているようである。ゆえにタモリ氏の言葉の真意がつかめなかったが、同じく長岡を流れる信濃川の印象を「河川敷がすごく広い」と語るのを最近目にした。そこから彼が何をみていたかがおぼろげに感じとれた。今ごろ気づくなと言われそうだが、「川は水がないところも含めて川」だということ。水の流れだけでなく、少し引いた目で川を眺めることによって、また違った川の味わいを楽しむことができる。

よわい四十半ばにして新たな、ささやかな発見である。



大河津分水と渡部城址

友の会会員 粕川 正之

私の自宅は大河津分水路のほとりにあり、その流れは自宅からよく見え、遠くの粟ヶ岳や守門岳を背景に、その景色は本当に素晴らしいです。さらに渡部城址まで登るとより素晴らしい景色に出会うことができます。

渡部城址は平安時代に築城された山城で、寺泊と地藏堂を結ぶ街道の関所、小木ノ城から黒滝城へとつなぐ狼煙の中継地点、そして国上・弥彦の山々に抱かれた平野部統治の要所として、多様な役割を担っていました。現在は燕市の文化財になっており大変貴重な史跡で観光客もたびたび訪れます。

昔は分水路にも多くの方々が来られていました。釣果を競う大会が開かれたこともあります。最近はトキがやって来て地域の人々を楽しませてくれました。川は多くの人々が集まり、親しまれるべきだとつくづく感じます。

このような観点から、地域の歴史を学べ、川との関わりを考えることができる信濃川大河津資料館は、大変重要で素晴らしい施設であると思います。

なお、今、私どもの地域では大河津分水路の拡幅工事が一つの話題となっています。先述した渡部城址は何とか残していただきたい、そのように心から願うばかりです。

次のご指名は藤田一哲さんと小林清さんです。